

## 境界(地区設定)について

# 【参考】コミュニティエリアの適正規模

## 昭和56年当時の考え方

地区設定にあたり、次の点に配慮した。

ア 町会・自治会等を単位とし、地域のまとまり(地理的条件、各地域の  
実

態、地域特性等)を中心に、面積、人口等を加味して地区を設定した。

イ 19地区の設定はあくまで想定であり、地元関係者と十分協議の上、  
地区決定する。

ウ なお、地区割りの主たるねらいは、地域におけるふるさとづくり協議会  
の推進にあるので、この線引きにより地域活動を損なうことのないよう配  
慮する。

# 【参考】コミュニティエリアの適正規模

■コミュニティエリア設置当時の人口及び現在との比較(旧柏市域) (単位:ha、人)

	面積	昭和55年	昭和60年	平成29年	昭和55年との差
田中地域	17.26	13,668	17,215	45,369	31,701
西原地域	1.62	11,533	12,638	17,160	5,627
富勢地域	5.05	17,339	20,963	24,041	6,702
松葉町地域	1.18	-	8,910	11,412	11,412
豊四季台地域	2.8	32,851	33,048	30,508	-2,343
高田・松ヶ崎地域	4.08	9,870	11,664	18,827	8,957
柏中央地域	3.28	18,253	18,630	26,742	8,489
新富地域	3.11	14,063	12,654	21,951	7,888
旭町地域	1.15	11,816	13,987	12,085	269
新田原地域	1.25	13,972	13,200	15,115	1,143
富里地域	1.66	14,249	14,905	20,122	5,873
永楽台地域	1.2	11,158	12,056	11,613	455
増尾地域	4.39	12,968	14,356	21,453	8,485
藤心地域	3.14	4,228	4,050	14,774	10,546
光ヶ丘地域	3.33	26,506	27,478	34,062	7,556
酒井根地域	1.86	7,161	7,388	12,506	5,345
南部地域	3.77	18,701	20,412	23,281	4,580

昭和55年(松葉町地域は60年)当時、1コミュニティエリアの規模として、おおむね10,000人以上または面積1ヘクタール以上となっている。

# コミュニティエリア設定の考え方

昭和56年当時の  
考え方を踏襲

町会・自治会等を単位とし地域のまとまり(地理的条件, 各地域の実態, 地域特性)を中心に面積人口等を加味して設定

線引きにより地域活動が損ないことの無いように配慮する地元関係者と十分協議のうえ地区決定する

地区割りの主たるねらいは、地域におけるふるさとづくり協議会の推進にあるので、この線引きにより地域活動を損なうことのないよう配慮する。

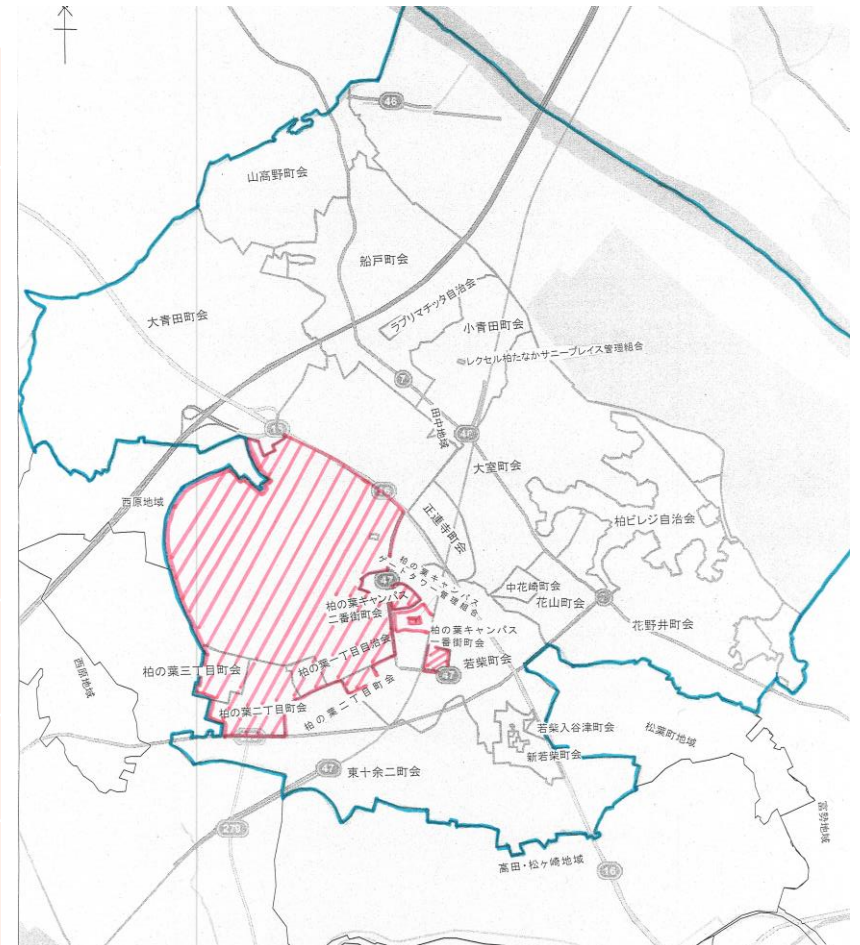
1中学校区:1コミュニティ:1近隣センター:1ふるさと協議会

柏市公共施設  
総合管理計画

1コミュニティ:1近隣センター

# コミュニティエリア(案)①

	(仮)柏の葉地域	田中地域
区域(町会名)	柏の葉1丁目 柏の葉2丁目 柏の葉3丁目他 キャンパス1番街 キャンパス2番街 ゲートタワー	柏市若柴 新若柴 若柴入谷津 東十余二 ほか田中地域ふるさと協議会加入町会
人口	※1) 約8,699人	※2) 約39,038人
面積	約2.74km <sup>2</sup>	約14.52km <sup>2</sup>
地域資源	東京大学キャンパス 県立柏の葉高等学校・県立柏の葉公園	田中北小・田中小・田中中・柏の葉小・柏の葉中



## 特徴

- ・地域の実態や地域特性に合わせた線引き
- ・(新)柏の葉地域の人口は約10,000人と小規模だが、コミュニティエリアの規模としては妥当

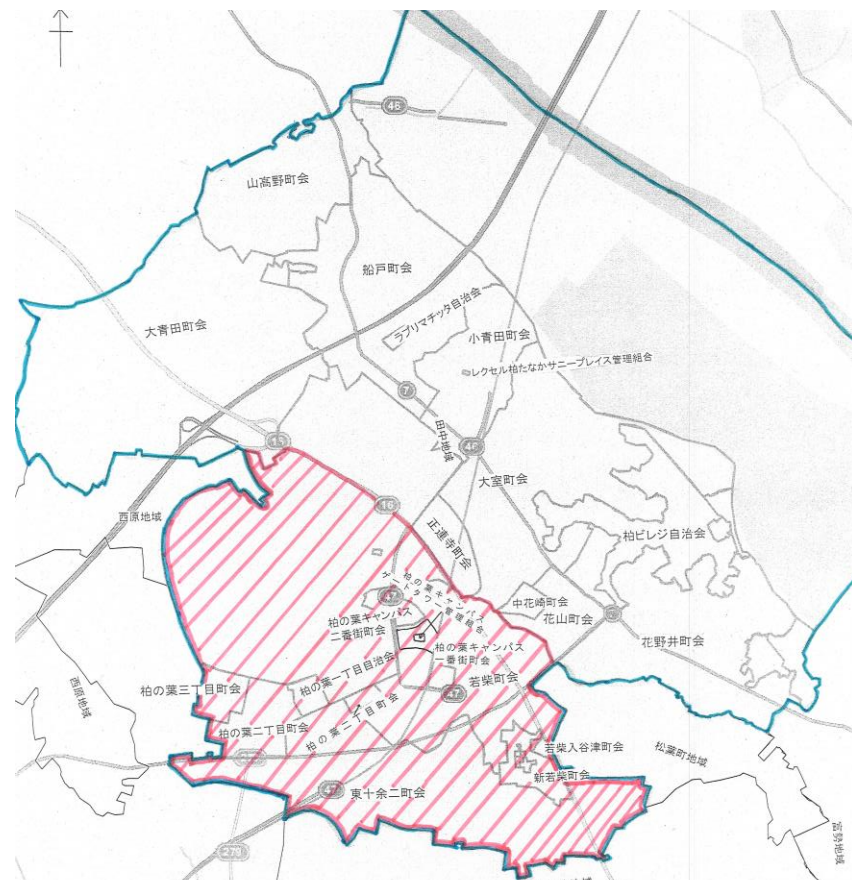
※1) 田中コミュニティエリア字別人口より町会別推定人口を積算したもの

※2) 現在の田中地域の人口から※1を引いたもの

# コミュニティエリア(案)②

区域(町会名)

	(仮)柏の葉地域	田中地域
	柏市若柴 新若柴 若柴入谷津 東十余二 柏の葉1丁目 柏の葉2丁目 柏の葉3丁目他 キャンパス1番街 キャンパス2番街 ゲートタワー	左の町会を除いた田中地域ふるさと協議会加入町会
人口	※1) 約22,164人	※2) 25,573人
面積	約5.04km <sup>2</sup>	約12.22km <sup>2</sup>
地域資源	東京大学キャンパス・県立柏の葉高等学校・県立柏の葉公園・柏の葉小・柏の葉中・十余二小	田中北小・田中小 田中中



**特徴**

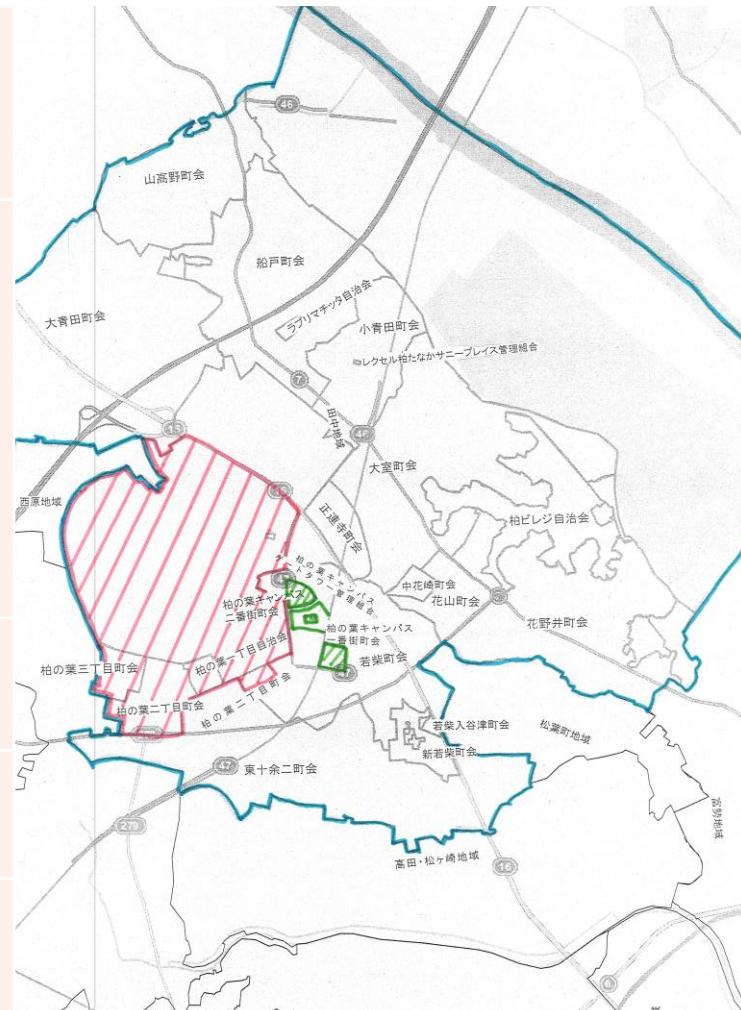
- ・それぞれの地域の人口がほぼ均等。
- ・国道16号線で分かれ、地理的に合理性がある
- ・すでに民生委員児童委員協議会がこの線引きで分かれている

※1) 田中コミュニティエリア字別人口より町会別推定人口を積算したもの。  
 ※2) 現在の田中地域の人口から※1を引いたもの



# コミュニティエリア(案)③

	(仮)第1 柏の葉地域	(仮)第2 柏の葉地域	田中地域
区域(町会名)	柏の葉1丁目 柏の葉2丁目 柏の葉3丁目 他	キャンパス 1番街 キャンパス 2番街 ゲートタワー	柏市若柴 新若柴 若柴入谷津 東十余二 ほか田中地域ふるさと協議会加入町会
人口	※1) 約3,565人	※1) 約5,134人	※2) 約39,038人
面積	約2.74km <sup>2</sup>	約0.00004473km <sup>2</sup>	約14.52km <sup>2</sup>
地域資源	東京大学キャンパス・県立柏の葉高等学校・県立柏の葉公園	柏の葉サービスコーナー	田中北小・田中小 田中中・柏の葉小 柏の葉中



## 特徴

- ・地域の実態や地域特性をさらに加味した線引き
- ・共同住宅で構成される地域の面積が小さくなる

※1) 田中コミュニティエリア字別人口より町会別推定人口を積算したもの。

※2) 現在の田中地域の人口から※1を引いたもの

# 協議事項

ふりかえり (委員長のまとめ)シートから

確認だが、コミュニティエリアを分けるということは最終決定ではないが前向きに考えていくという方向でいきたい。ただし、そのときの①分ける案(線引き)については次回の協議事項としたい。今日の議論を総括すると、②エリアの問題と実際に運営していく運営主体の問題がある。今後(将来)の③コミュニティエリアについては緩く考えていくことも必要だろう。また、福祉、防災、子育て、教育の面を考えても直近の問題である。



# 市の主な施策への影響①

## 「地域のちから」分野

主な施策	<p>◇地域コミュニティの活性化</p> <p>◇地域や社会の課題に対応した学習支援</p>
分割の影響	<p>◇柏市のコミュニティ施策は、地域特性を踏まえた20地域において、市とふるさと協議会が連携することによって、市内全域で地域の実情に合ったまちづくりが展開できることが特長である。しかしながら、<b>柏の葉地域の6町会はこれまで、市のコミュニティ施策と関わりが持てなかったと言える。</b></p> <p>柏の葉地域にある6町会は現在ふるさと協議会にはいっていないため、<b>エリア分割によりふるさと協議会が発足され、広域でのまちづくりに参加できるようになることが望ましい。</b>(地域支援課)</p> <p>◇エリア分割した場合、公共施設等総合管理計画に基づき、近隣センターを新設することになる。新規の施設整備は、地域活動の活性化並びに行政拠点の整備として必要と認識されているが、相当の費用と新規の職員配置が必要となる。(地域支援課)</p>
①②③案の比較	<p>◇①案の場合、地域住民意識、地域特性、生活環境に合った地域活動の展開が期待できる。</p> <p>②案の場合、近隣センターの設置を考えると、人口規模が概ね半々となることから地域活動の拠点としてはより適切と言える。</p> <p>③案の場合、1エリアの規模が小さくなり、広域のまちづくりを行うふるさと協議会の規模として適切か疑問である。</p> <p>また、近隣センターの設置を考えたとき、それぞれエリアごとに設置をするかなど検討が必要となる。(地域支援課)</p> <p>◇「この線引きにより地域活動を損なうことのないよう配慮する」という分割当時の考えを踏襲し、<b>費用対効果を踏まえつつ、地域活動者の合意を得られやすい分割が望ましい。</b></p> <p>(地域支援課)</p>

# 市の主な施策への影響②

## 「健康サポート」分野

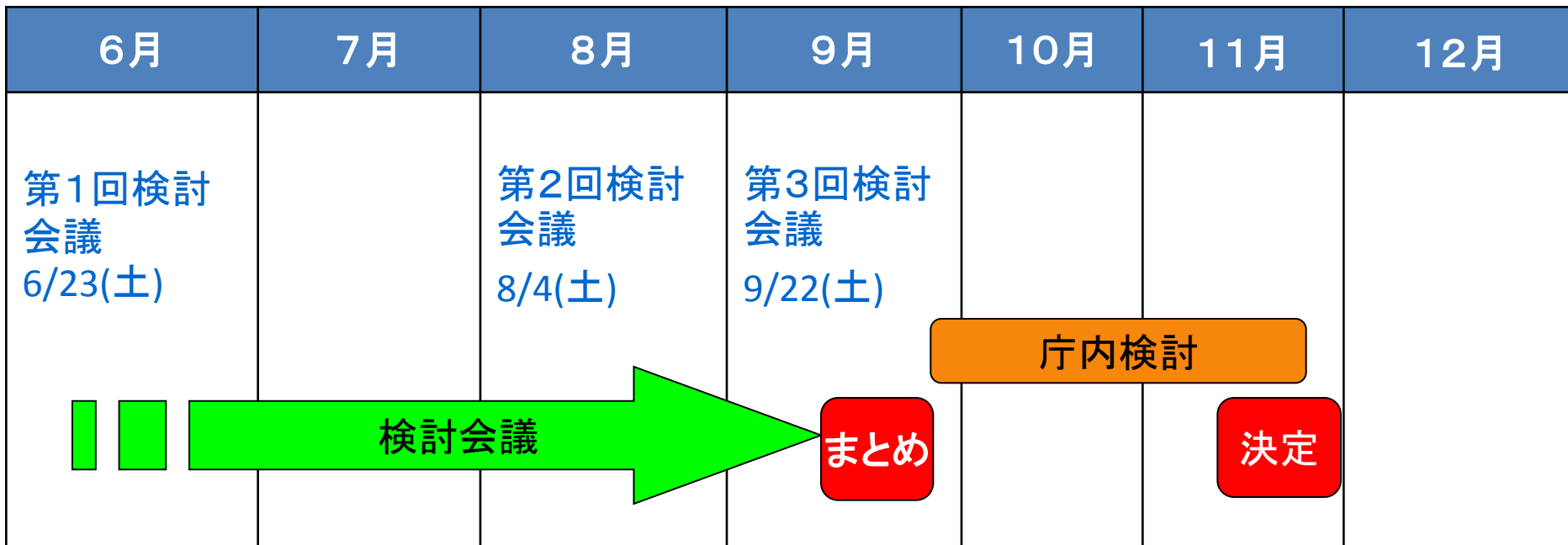
主な施策	◇介護予防の推進 ◇高齢者の社会・地域参加の促進 ◇認知症対策の推進
分割の影響	◇主たる福祉政策は日常生活圏域(市内7圏域)をベースにしている。分割した場合、北部1圏域(田中、西原、(仮)柏の葉)における地域包括支援センターの担当エリアや設置場所等の検討が課題となる。(地域包括支援課) ◇保健福祉部では日常生活圏域データを作成し、小圏域(=コミュニティエリア)ごとの高齢者数や高齢化率を出している。田中地域の高齢化率は現在17位だが、分割するともっと上がると思われる。(高齢者支援課) 地域の高齢化率等、実態に即した数字が示されることによって、高齢化に対する取り組みの必要性をより強く伝えることができる。(地域支援課) ◇支え合い活動は、ふるさと協議会を中心に取り組まれているため、柏の葉地域の町会との関わりが薄い。(仮)柏の葉ふるさと協議会として、市や社協と連携していけることが望ましい。(地域支援課)
①②③案の比較	◇①案の場合、地域特性や生活環境に合わせた線引きのため、①案に比べ、支え合い活動や介護予防等の活動は取り組みやすいと思われる。 ②案の場合、コミュニティエリアに先行し、民生委員・児童委員協議会エリアが分割されているため、民生委員や地区社協の活動はそのまま移行できる。 ③案の場合、支え合い活動等を各地域で実施することを想定すると、広域での取り組みによるスケールメリットが得られず、地域活動者の負担が増すことが懸念される。(地域支援課)

# 市の主な施策への影響③

## 「安全安心」分野

主な施策	◇地域防災・防犯力の向上 ◇災害に備えた体制強化
分割の影響	◇地区災害対策本部は、各地域に1つ設置され、有事の際、地域内の情報収集や調査、地域住民と連携した防災活動を行うこととなっている。エリアが分割され、地区災害対策本部が新設されれば、災害時に地域の状況に応じたよりきめ細かい対応ができる。(防災安全課)  ◇現状では、田中地域は人口、町会数とも多く、地区災害対策本部の負担が大きくなっている。また、柏の葉エリアからは距離があり、町会との連絡調整に困難が予想されている。それぞれに地区災害対策本部が設置されることが望ましい。(地域支援課・田中近隣センター)
①②③案の比較	◇①案の場合、人口集中している柏の葉キャンパス駅周辺を新設される地区災害対策本部で対応できるため、田中地域地区災害対策の負担が軽減されるが若柴町会等が町会が対策本部から距離があることは現状のとおり。 ②案の場合、地区災害対策本部の設置を考えると、国道16号線を境とするため、情報収集等を行いやすい。 ③案の場合、狭い範囲での情報収集のしやすさはあるが、地区災害対策本部を増やすことによるコスト(職員、設備等)が懸念される。 (防災安全課・田中近隣センター)  ◇地域によっては震災時の避難訓練等をふるさと協議会単位で行っている。災害時に協力体制を組みやすい地域として分割されることが望ましい。(地域支援課)

# 田中・柏の葉コミュニティエリア検討スケジュール



開催年月日 平成30年6月23日(土) 田中近隣センター会議室 午前10時～12時

平成30年8月 4日(土) 東葛テクノプラザ第2研修室 午前10時～12時

平成30年9月22日(土) 東葛テクノプラザ第1研修室 午前10時～12時